

平成29年 **7**月の**優しさ**通信



80歳で歯20本 5割超す 2016年

口腔ケア意識高まる

- 厚生労働省は、80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合が推計で51.2%に上ったとする2016年歯科疾患実態調査の結果を公表しました。40.2%だった2011年の前回調査から10ポイント以上増えました。
- 20本は、入れ歯なしにほとんどのものを食べられる目安で、厚労省は「8020運動」として、高齢者の口腔ケアを推進しています。
- 20本以上の歯がある人の割合は、75～79歳で8.5ポイント増の56.1%、80～84歳で15.3%増の44.2%。80歳時点での割合は、75～84歳の結果から推計。
- 1日の歯磨き回数は1回が18.3%で3.6ポイント減少。2回は1.5ポイント増の49.8%、3回以上は2.1ポイント増の27.3%。

(2017年6月3日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



認知症恐れ1万人 75歳以上のドライバー 3～5月

- 75歳以上の高齢ドライバーの認知機能検査を強化した改正道路交通法が施行された3月から5月末までの間に、運転免許更新時などに「認知症の恐れがある」と判定された人は11,617人(暫定値)。
- このうち8.5%の987人が医師のアドバイスなどで免許を自主返納。
- 改正道路交通法は、免許更新時などに行われる認知機能検査で「認知症の恐れ」と判定された場合に、医師の診断を受けることを義務化。認知症とされると免許取り消しか、停止になります。

(2017年6月24日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



脳波で認知力評価 機能低下を早期発見

- 産業技術総合研究所は、脳波から認知機能を評価するシステムを開発。認知機能の低下の兆候の早期発見に役立つほか、認知機能を高める訓練にも使えると期待しています。
- 将来は認知症患者らへの適用を視野に入れます。

(2017年6月19日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



「三大死因」死亡率 最低に がん・心疾患・脳血管疾患

青森県、男女ワースト

- ・がんや心疾患、脳血管疾患の「三大死因」の死亡率が過去最低を更新したことが、厚生労働省の「都道府県別年齢調整死亡率の概況」で分かりました。死亡者が最も多い癌では、男性は全都道府県で、女性は41都府県で死亡率が低下。男女ともに青森県がワースト。
- ・2015年の死因別の死亡率は、男女ともに癌がトップ。男性は165.3人（人口10万人当たり、前回調査比17.1ポイント減）、女性は87.7人（同4.5ポイント減）。
- 心疾患の死亡率は、男性が65.4人（同8.8ポイント減）、女性が34.2人（同5.5ポイント減）。脳血管疾患は、男性が37.8人（同11.7ポイント減）、女性が21.0人（同5.9ポイント減）。いずれも過去最低を更新しました。
- ・がんの死亡率の2位は男性で秋田、女性で北海道。塩分の多い食習慣などが影響。
- ・男性は長野や滋賀、女性は岡山や長野でがんの死亡率が低くなりました。
- ・全体の死亡率は、男性が486.0人（同58.3ポイント減）、女性が255.0人（同20.0ポイント減）。男女ともに青森が最も高く、長野が最も低い結果でした。

（2017年6月15日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



認知症支える保険続々 メットライフや東京海上

診断後、すぐに一時金も

- ・認知症を対象にした商品を保険会社が充実させています。
- ・メットライフ生命保険は7月、認知症と診断された時点で一時金を支払う業界初の商品を発売。東京海上日動火災保険も認知症患者の搜索費などを補償する保険の加入対象を小規模事業者に広げます。
- ・認知症治療に特化した商品は太陽生命保険が昨年3月に発売し、5月時点での契約数は20万件を超えました。

（2017年6月29日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



今月の福祉用具－移動関連用具

その2 つえ2 杖の種類

①ステッキ型杖

- ・最も一般的な形。取っ手が丸いので腕にかけられます。
- ・片手だけで杖もつき、切符も買い、手すりにもつかまるといった、片麻痺の障がい者には便利。
- ・体重をかけるよりも歩行のリズムをとるために適しています。

②T字型杖

- ・ステッキよりも体重をかけやすいのが特徴。
- ・手首の力が効くように取っ手と支柱に角度があります。
- ・握りは比較的真っすぐで握りやすくなっています。

③ロフストランドクラッチ

- ・前腕固定型杖。杖の上部が握りの上まで伸びて、そこに前腕カフがついていて、腕を通して固定できます。
- ・握りと前腕の2点で体重を支えるので、腕の力も使えます。握力が十分でない時に有効。
- ・下半身まひ者、下肢に体重を掛けられない骨折、捻挫、股関節症、下肢切断、片麻痺などの歩行補助に向いています。

④プラットホームクラッチ（肘支持型杖）

- ・リウマチ杖とも。杖の上端に横木を付け、その先端に縦に握りが取り付けられています。握りを握った腕を横木の上の弾力性のあるパッドにのせ、マジックバンドで固定して前腕全体で体重を支えます。材質は軽金属製で、横木の高さや取っ手位置が調節できます。
- ・リウマチなど手指・手関節に強い負荷をかけられない場合や手首や肘などに障害があり、自由に伸ばせないひじ関節などに伸展制限のある関節炎患者などに向いています。

⑤松葉杖

- ・普通は2本1組で使います。最も重い荷重に耐えられる杖で、前腕固定型杖よりも安定性があります。
- ・骨折などで片足に体重が掛けられない場合や足の筋力が衰えた場合も、松葉杖を使えば歩行が可能になります。
- ・身体に合わせる時に大切なことは、握りの高さや腋下支持バーの高さの調整です。脇当ては腋ではなく、腋の下から卵ひとつ分下にくるように調節しま

テーマは「優しさ」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

す。

・下半身まひ、骨折、捻挫、股関節症、下肢切断などの障がい者や患者向きです。

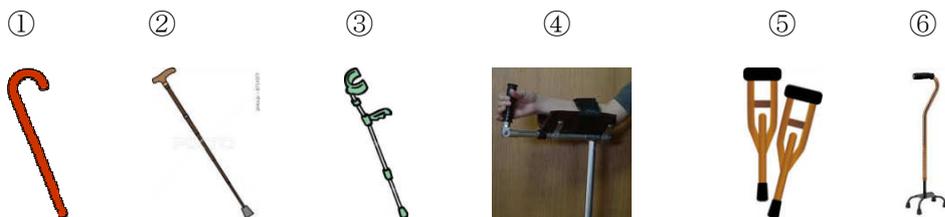
⑥多脚型杖

・1本杖よりも一層の安定を求めてつくられたもの。取っ手は一つですが、脚が4本（または3本）に分かれています。着地面積が広く、安定度は高くなっています。

・体重をかけても倒れないので、立つ姿勢の悪い患者の歩行訓練に適しています。

・重さが比較的軽いので、腕の力が弱くても使えます。

・脳卒中後遺症の片麻痺の初期歩行訓練に多く使われ、高齢者の変形性股関節症、関節リウマチなどにも用いられます。



(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより)

